

1974年タワーリング・インフェルノ
1991年バックトラフト
そして...

竹中直人監督作品

119

—全熱い男たちが帰ってきた!—



第1回監督作品「無能の人」が1991年
ヴェネチア国際映画祭で国際映画批評家
連盟賞を受賞し、日本国内はもとより国
際的にも大きな注目を集めた竹中直人の
待望の新作が完成した。3年間の準備期間
の中でじっくりと脚本を練上げ、満を持して
送る念願の監督第2作、それが「119」である。



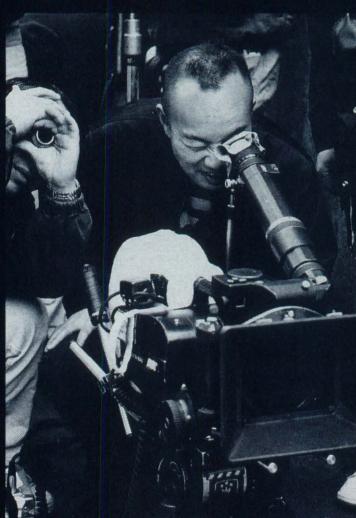
この作品の主人公は消防士たちである。
だが、「119」は火災時での消防士たちの勇
敢な活躍を描く作品ではない。逆に、この
作品の中では一切火災は発生しないので
ある。竹中は、この作品の舞台として、ここ
18年間火災が起こったことのない架空の
町を設定した。このような町であっても、
消防士たちは万が一の火災に備えて常に
待機していなければならない。彼らにとっては、
ほとんど起ることが期待できない
火災を“待つ”こと自体が仕事なのである。

このような生き方は、人によっては極めてネガティブな生き方に見えるかもしれない。だが、この作品の主人公たちはこのような生き方に決して不満を持っているようには思えない。むしろ、そういう人生を楽しんでいるようにすら思える。この平穏な世界に、東京から一人の女性がやってくることにより、一つの物語が始まる。その物語は、現在の日本では幾分時代錯誤的とも言えるほどの余りに純粋なラブ・ス
トーリーの形をとることになるだろう。

実際、この作品には様々な意味で現代の日本から取り残された風景が姿を見せる。今だに火の見やぐらが残っている木造の消防署、レトロな雰囲気を漂わせるスナック、そして小津安二郎や成瀬巳喜男の映画のセットを思わせるような日本家屋。この作品が舞台としている町全体が現代

竹中直人監督作品

119



〈キャスト〉

赤井 英和

鈴木 京香

竹中 直人

塙本 晋也, 温水 洋一

浅野 忠信, 津田 寛治

岩松 了, 石堂 夏央

宮城 聰, 石川 真希

本田 博太郎, 伊佐山 ひろ子

マルセ 太郎, 三東 康太郎

真田 広之, 大塚 寧々

周防 正行, 松岡 錠司, 奥山 和由

(以上 友情出演)

須賀 不二男

久我 美子

の消費社会からは取り残された一角であ
り、それが決してネガティブな意味合いで
なく、ある意味でのユートピアとなっ
ているところに、「無能の人」とも共通する一
種“竹中ワールド”とも言うべき世界が形
成されているのである。

今回初めて共同脚本家としてもクレジットされている竹中とともに脚本を担当したのは「それから」「華の乱」の筒井ともみと、大学在学中の竹中の盟友で、岸田戯曲賞受賞で注目を集めた劇作家・宮沢章夫。宮沢もまた本作が初めての映画脚本である。撮影は前作に続いて佐々木原保志が担当。「その男、凶暴につき」「死んでもいい」そして、「RAMPO」等で今日本で最も注目される撮影監督である。その他、照明、美術、録音、編集、衣装など「無能の人」のメイン・スタッフたちがこの「119」にも集結した。また、音楽を忌野清志郎が担当し、この作品のために作曲したオリジナル曲を披露してくれるのも話題である。

出演陣もバラエティに富んでいる。前作に続いて監督・主演の竹中、目下絶好調の赤井英和、髪型を変えてヒロイン役に取り組む鈴木京香の3人がメイン・キャラクターを演じ、小劇場界の怪優・温水洋一、期待の若手・浅野忠信、津田寛治らと絶妙のアンサンブルを見せれば、小津安二郎作品の常連であった久我美子、須賀不二男が脇を固める。また、「鉄男」の塙本晋也、「きらきらひかる」の松岡錠司、「シコふんじゃった。」の周防正行、「お墓と離婚」の岩松了ら、第一線で活躍する若手監督たちが俳優として出演しているのも見逃せない。伊佐山ひろ子、本田博太郎らベテランの堅実な演技、真田広之、奥山和由ら友情出演陣も注目である。



〈スタッフ〉

製作・櫻井洋三、小林尚武、市村将之 企画・小口健二、中沢敏明 プロデューサー・田沢連二、吉田浩二

脚本・筒井ともみ、宮沢章夫、竹中直人 監督・竹中直人 音楽監督・忌野清志郎

撮影・佐々木原保志/J.S.C. 照明・安河内央之 録音・北村峰晴 美術・斎藤岩男 編集・奥原好幸

製作・松竹株式会社、株式会社テレビ東京、株式会社イメージファクトリー・アイエム 製作協力・SEDIC 配給・松竹株式会社

11月5日(土)よりロードショー！ 特別鑑賞券発売中！

(一般¥1400/学生¥1200/ペア券¥2600(お2人で))

東

03(3541)2711

劇

新宿ジョイシネマ2 03(3209)6180

渋谷ジョイシネマ 03(3462)2539

池袋日勝文化 03(3971)9437

横浜シネマリン 045(261)1007